

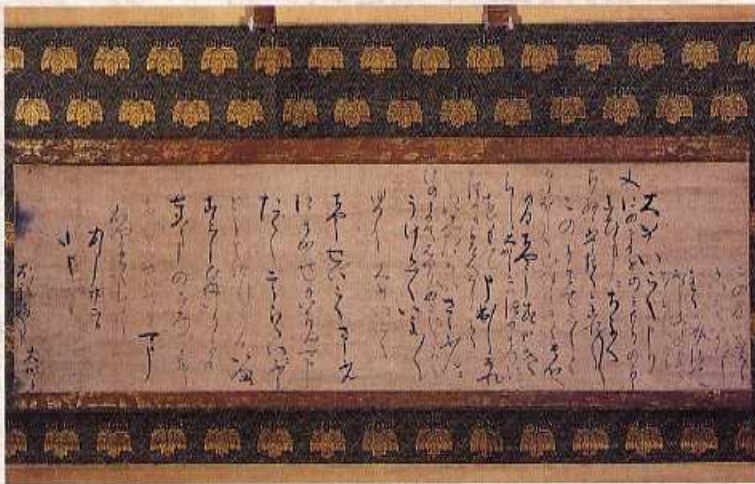
館蔵名品展Ⅲ

会期:平成21年4月21日(火)~5月31日(日)

主催:佐賀県立名護屋城博物館

名護屋城博物館では、メインテーマ「日本列島と朝鮮半島との交流史」や城郭史、佐賀県・唐津・東松浦地域の歴史・文化、朝鮮半島の歴史・文化などに関する資料を収集し、調査研究・展示紹介に努めています。

今回の展覧会では、館蔵資料の中から歴史的・美術史的に価値の高い資料を厳選し、「名品選」として御紹介します。また、新たに佐賀県重要文化財に指定されました「豊臣秀吉自筆書状(五月廿二日/おね宛)」・「名護屋城跡出土天正十八年銘文字瓦」をはじめとして、これまで寄託いただいている資料や平成20年度に寄贈いただいた資料も御紹介いたします。常設展示ではなかなか御覧いただけない資料も多数展示いたしますので、この機会にぜひ名品の数々をごゆっくり御堪能ください。



とよみひでよしじひつしよじょう ごがつにじゅうにち あて
豊臣秀吉自筆書状(五月廿二日/おね宛)

〔文禄2(1593)年〕5月22日付
掛幅1幅 28.0×90.5cm(本紙) **佐賀県重要文化財**

文禄・慶長の役に際して豊臣秀吉は通算12ヶ月半肥前名護屋に滞在した。その間秀吉が記した自筆書状は、この手紙を含め現在12通が確認されている。正室おねに宛てたこの書状からは、明国講和使節(謝用梓・徐一貫ら)との会談を翌日に控え、秀吉が使節団を「わび事」=降伏のための勅使と誤認し、強硬な和平条件のもと、それを受け入れれば戦いを終わらせると考えていることが分かる。また、側室「にのまるどの」=淀殿の懐妊の報に接し、実子を持たなかったおねへの気遣いの文章を記すなど、秀吉の戦況認識だけでなく彼の人間味もうかがい知ることができる好資料である。



ふんせい さきてつ せ にんじん はもんたわらつぽ
粉青沙器鉄絵人参葉文俵壺

朝鮮時代前期 縦26.6cm 高さ20.0cm

粉青沙器とは素地に白土を化粧して釉薬をかけた陶器である。鉄絵は鉄分を含んだ赤色土で描く技法で、15世紀末から16世紀にかけて発達した。これらの技法は、その後の日本の陶磁器に強い影響を与えた。

本資料は朝鮮人参の葉を鉄絵で力強く描き、俵型の器は重厚な味わいがある。

ちようせんしせつ きぼず
朝鮮使節騎馬図 宮川長春筆

江戸時代中期 掛幅1幅 125.0×40.0cm(本紙)

江戸時代、朝鮮通信使は計12回来日した。当初の目的は文禄・慶長の役後の国交回復交渉であったが、4回目以降は新将軍の就任祝賀など両国の交流を深める役割を果たした。宮川長春(1682~1752)は、肉筆による豊艶な美人画を得意とした浮世絵師。土佐派に学び、菱川師宣の作風を慕うとされる。本作品は、休息をとる通信使随員の気取らない表情と馬にわらじを履かせる男子をユニークな構図で描いている。





にほんし しょはん
モンタヌス『日本誌』(初版)

1669年 洋書1冊 32.0×21.3cm

オランダの牧師モンタヌスが、宣教師やオランダ人から得た情報から日本についてまとめたもの。著者本人はアジアを訪れたことはなかったが、日本の状況を知る手段として当時広く読まれた。よく知られる上の絵は、江戸幕府が築いた大坂城の様子を描いている。



そうがらんかくもんこうろ しみまで
象嵌雲鶴文香炉(三島手)

江戸時代後期 志賀窯 高さ10.5cm

江戸時代、高麗茶碗の人気が高まり、大名や公家、茶人などからの注文を受けて対馬府中で作陶が営まれた。

これはその中の志賀窯で焼かれた香炉である。白土と黒土を用いて雲・鶴の象嵌を施し、蓋のつまみ部分には兎があしらわれている。



そうがらんみつきみずさし しみまで
象嵌耳付水指(三島手)

江戸時代初期 大草野窯 口径13.5cm 高さ18.8cm

「三島手」は粉青沙器の技法から影響を受けており、まだ素地が柔らかいうちにつけた文様に、白土を詰める装飾が特徴。本資料は厝手文・菊花文・渦巻文・沈線などが施され、典型的な様相をもつ。



なご やじょうあとしゆつど
名護屋城跡出土

てんしゅうじゅうはちおんめい も じかわら

天正十八年銘文字瓦 佐賀県重要文化財

天正18(1590)年 26.8×15.6cm

名護屋城跡水手曲輪から出土したこの瓦には「天正十八年／五月吉日／四天王侍住人藤原朝臣美濃／住村与介」と刻まれている。名護屋城跡から出土した瓦から年号が特定されたのはこの瓦のみで、従来から考えられていた築城の時期に再検討を迫る極めて重要な資料である。

また、人名の詳細は不明であるが、築城に際しての瓦工人の関わり方を検討する上でも貴重な資料である。



ひぜんのくに おがわしまくじらば えす
肥前国小河嶋鯨場絵図

江戸時代後期 掛幅1幅 78.7×190.5cm(本紙)

呼子沖に浮かぶ小川島および加唐島を南から俯瞰した視点で描いている。左には加唐島東の淀網代で3重の網を張って2頭のセミクジラを捕獲する様子が、右には小川島の納屋場に運んだセミクジラを解体する様子が描かれている。この構図自体の類例が少なく、また小川島の全景・納屋場の各建物・施設の名称が詳細に記されている点特徴である。



ちようせん つうしん しぎょうれつ え まき
朝鮮通信使行列絵巻

つげたり じん
附「ちやうせん人ことは」

江戸時代中期 巻子1巻 36.5×1052.0cm(本紙)

巻頭に「ちやうせん人ことは(朝鮮人言葉)」と題して、「さけ」「ちやわん」などの音訳があり、それ以降に65人の通信使一行と63人の日本側の武士が描かれている。

時に500人にのぼる通信使一行の華麗な行列は、当時の人々の好奇心を大いに集め、通信使を描いた数多の絵画作品が制作された。本資料の描写は写実的で躍動感にあふれており、金粉を施した紙も大きく良質である。



のうかがくじず
農家樂事図 [写真は部分]

朝鮮時代末期

屏風8曲1隻

各扇75.4×36cm(本紙)

田植え、刈り入れ、脱穀といった農作業、さらに縫織りや女性たちによる糸紡ぎ・機織りなど、四季を通じての農村生活の様子が描かれる叙情詩的な絵画。



ちようせんし しよ とつくり
朝鮮詩書德利

江戸時代後期 口径5cm 高さ22.2cm

瀬戸内海の海上交通の要所であった鞆(広島県福山市)で盛んに使用された德利。江戸に向かう朝鮮通信使も必ずこの鞆の港に帆を降ろして日本側の歓迎を受けた。この德利には通信使にまつわる漢詩と絵が描かれており、この地方における通信使との交流の深さを窺わせる。



さんせいすいしよく
金製垂飾

三国時代(5~6世紀) 長さ(大)22.3cm

朝鮮半島の三国時代から統一新羅時代にかけて盛んに製作された王族などの装身具。精巧な細工が施されており、アクセサリとして耳や王冠などに装着して威信を示した。九州から西日本にかけての地域でも同様の金製垂飾が古墳から出土しており、当時の交流を物語っている。



ごこんりっし にしゆびようが
五言律詩二首屏風

江戸時代初期
屏風6曲1隻 各扇129.5×44.5cm



こうこうぜん しよう ぶで
洪浩然使用の筆



きょうけい がく 江戸時代初期
「恭敬」額 額1面 37.8×82.3cm

洪浩然とは...

優れた書家として知られる洪浩然(1582~1657)は朝鮮国・晋州の官人の子といわれ、文禄・慶長の役(1592~98)の際に鍋島直茂軍に捕らえられ、佐賀に連れてこられた。漢詩や書に通じていた浩然は直茂・勝茂二代に側近として仕え、その間与止日女神社(河上神社)や千栗八幡宮など各地の鳥居銘を揮毫している。明暦3(1657)年3月に勝茂が江戸で没すると、その報を受けた4月8日、子孫への遺訓として「忍」の書を遺して追腹を切った。

名護屋城博物館では平成19年度に御子孫から洪浩然・洪家史料の寄贈を受け、翌20年10月にそれらを一堂に展示する寄贈記念展「洪浩然一忍ぶ・忘れず」を開催した。



ナクチュクはんになしんぎようほつす
烙竹般若心經拵子

現代 長さ147.5cm

韓国・全羅南道の潭陽地域では古くから竹細工が発達し、竹細工をより美しく見せるために焼きこてで絵や模様を描く「烙竹」技法が発達した。本資料は、韓国の重要無形文化財第31号技能保有者である金基燦(金・基燦)氏の手によって制作された仏具「拵子」である。



ちょうせんはんとう え は がき けいじょうめいしやう え は がき
朝鮮半島絵葉書(「京城名勝絵葉書」)

1925~33年発行 葉書32枚・袋1枚 各14.2×9.1cm

朝鮮半島の日本統治時代に、同地の絵葉書の発行元・版元として最もシェアの高かった「京城日之出商行」が印刷・発行したもの。朝鮮総督府や朝鮮神宮、東洋拓殖会社、京城駅、景福宮など当時の京城(現ソウル)市内の名所・旧跡を網羅している。セット販売されたものの明確な揃いという点でも重要である。

〔展示資料一覧〕

No.	資料名	形態数量	年代・寸法(掛幅・屏風は本紙)・その他	コーナー
1	豊臣秀吉自筆書状(五月廿二日/おね宛) ※佐賀県重要文化財	掛幅1幅	文禄2(1593)年 28.0cm×90.5cm	名品選
2	名護屋城跡出土天正十八年銘文字瓦 ※佐賀県重要文化財	瓦1点	天正18(1590)年 26.8cm×15.6cm	
3	豊臣秀吉朱印状(佐与姫社神主中宛)・添状(田島神社蔵/当館寄託)	書状2通	文禄2(1593)年(朱印状)44.0cm×90.5cm	
4	金製垂飾	金製品12点	三国時代(5~6世紀)(大)長さ22.3cm	
5	青銅製馬形帯鉤	青銅製品2点	古墳時代(大)9.5cm×6.2cm	
6	ルイス=フロイス「イエズス会日本通信」羅訳版	洋書1冊	1596年 15.5cm×9.5cm	
7	モンタヌス「日本誌」(初版)	洋書1冊	1669年 32.0cm×21.3cm	
8	洪浩然使用の印章	印章5顆	江戸時代初期 径4.8cm(角印)	
9	洪浩然使用の筆	筆6点	江戸時代初期(特大筆)穂:18.5cm 柄:26.4cm	
10	洪浩然譜并諸家題言	竖帖1冊	文政11(1828)~天保元(1830)年 29.4cm×22.7cm	
11	洪浩然書 五言律詩二首屏風	屏風6曲1隻	江戸時代初期 各扇129.5cm×44.5cm	
12	安宅丸雛形圓屏風	屏風2曲1隻	明治時代(左隻)25.8cm×50.0cm	
13	粉青沙器鉄絵人參葉文依壺	陶器1点	朝鮮時代前期 縦26.6cm 高さ20.0cm	
14	象嵌耳付水指(三島手/大草野窯)	陶器1点	江戸時代初期 口径13.5cm 高さ18.8cm	
15	鉄絵草花文壺	磁器1点	朝鮮時代 口径9.7cm 高台径6.7cm 最大17.0cm	
16	青花唐草文碗(少林寺蔵/当館寄託)	磁器1点	江戸時代初期 口径13.5cm 高さ5.8cm	
17	朝鮮通信使行列絵巻 附「ちやうせん人ことは」	卷子1巻	江戸時代中期 36.5cm×1052.0cm	
18	朝鮮使節騎馬図	掛幅1幅	江戸時代中期 125.0cm×40.0cm	
19	寿老図	掛幅1幅	1764年 94.2cm×35.6cm	
20	馬上才図巻	卷子1巻	江戸時代中期 25.5cm×609.0cm	
21	黒笠	笠1点	朝鮮時代後期 縦36cm 横37cm 高さ21cm	
22	朝鮮詩書徳利	陶器1点	江戸時代後期 口径5cm 高さ22.2cm	
23	象嵌雲鶴文香炉(三島手/対馬志賀窯)	陶器1点	江戸時代後期 高さ10.5cm	
24	象嵌雲鶴文茶碗(対馬志賀窯)	陶器1点	江戸時代後期 口径13.1cm 高台径4.6cm 高さ7.5cm	
25	短歌(春斎・横井也右筆)	掛幅1幅	江戸時代中期 63.0cm×34.0cm	
26	朝鮮通信使写字官 金義信三行書	掛幅1幅	江戸時代初期 67.9cm×42.3cm	
27	五三桐文軒丸瓦(個人蔵/当館寄託)	瓦1点	時代不詳 径30.0cm	
28	名護屋城跡出土 鬼瓦・金箔瓦	瓦5点	桃山時代(鬼瓦)15.4cm×16.4cm	
29	農家楽事図	屏風8曲1隻	朝鮮時代末期 75.4cm×36.0cm	朝鮮半島の文化
30	焙竹般若心経弘子(焙竹匠の作品)	仏具1点	現代 長さ147.5cm	
31	螺角(楽器匠の作品)	楽器1点	現代 縦33.0cm 横18.6cm 高さ13.2cm	
32	麻本着色六菩薩立像	掛幅1幅	朝鮮時代中期 146cm×76.2cm	
33	勇魚取絵詞	折本2帖	天保3(1832)年刊 33.6cm×22.6cm	佐賀県・唐津・東松浦地域の歴史・文化
34	肥前国小河嶋鯨場絵図	掛幅1幅	江戸時代後期 78.7cm×190.5cm	
35	兵衛免許皆伝書	卷子20巻	江戸時代 各巻17.9cm×100.9cm	
36	岩下家史料(唐津藩船手関係史料3点)	書冊3帖	江戸時代後期	
37	青木月斗句書(個人蔵/当館寄託)	掛幅1幅	昭和初期 154.7cm×106.8cm	
38	洪浩然書「心外無別法」 【洪俊夫氏寄贈】	掛幅1幅	江戸時代初期 110.6cm×28.9cm	平成20年度寄贈資料
39	洪浩然書「恭敬」 【西村慶介氏寄贈】	額1面	江戸時代初期 37.8cm×82.3cm	
40	洪浩然六字名号書 【西村慶介氏寄贈】	掛幅1幅	江戸時代初期 90.1cm×26.0cm	
41	洪晋城書「忍」 【西村慶介氏寄贈】	掛幅1幅	文政7(1824)年 66.6cm×34.8cm	
42	朝鮮半島絵葉書(「京城名勝絵葉書」) 【筒井博人氏寄贈】	葉書32枚 袋1枚	1925~33年 各14.2cm×9.1cm	

- 【附記】 1 資料収集に御協力を賜りました洪俊夫様、西村慶介様、筒井博人様、寄託資料の出品に御協力を賜りました所蔵者の皆様には厚くお礼申し上げます。
 2 都合上、上記「展示資料一覧」の番号と実際の展示の順番が前後することがあります。御了承ください。
 3 この展示会の企画及びパンフレットの執筆・編集は、西田和己の補佐のもと当館資料担当職員との協力を得て久野哲矢が担当しました。

佐賀県立 **名護屋城博物館**
 Saga Prefectural Nagoya Castle Museum
 〒847-0401 佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3
 TEL 0955-82-4905 FAX 0955-82-5664
 E-mail nagoyajouhakubutsukan@pref.saga.lg.jp
 URL http://www.pref.saga.lg.jp/web/nagoya.html

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 月曜日(休日の場合は翌日)及び年末
- 観覧料 無料(特別企画展開催期間中を除く)

平成21年4月20日発行
 編集・発行 佐賀県立名護屋城博物館
 印刷 (株)三光

©2009 佐賀県立名護屋城博物館